

# 開館 向井潤吉アトリエ館



庭よりの外観  
©宮本和義

SETAGAYA ART MUSEUM  
Mukai Junkichi Annex

## 開館記念展 郷愁と輝き・向井潤吉と民家

1993年7月10日[土]—10月11日[月]

開館時間—午前10時—午後6時(入館は5時30分まで) 休館日—毎週月曜日(この日が休日にあたるときは、その翌日)  
観覧料—大人200円(160円) 大高生150円(120円) 小中生100円(80円) ( )内は20名以上の団体料金

《春映(岩手県上閉伊郡宮守村)》1976年



このたび洋画家・向井潤吉氏は世田谷区に対し、長年にわたり住まわれた住居と、ここに付設されている土蔵、そして300数十点の作品（油彩、水彩ほか）、加えて向井潤吉氏夫人が蒐集された、全国各地の民具などを寄贈されました。

建築については向井潤吉氏のご家族が愛用された住宅としての雰囲気を保つことを念頭に、およそ1年間をかけ改修工事が行われ、展示施設としての設備が整えられ、当館は世田谷美術館の分館として、本年7月10日に一般公開するはこびとなりました。

向井潤吉氏は戦後間もない頃より、氏の生涯のモチーフとなった“民家”を日本全国に取材し、つねに現場にキャンバスを携えながら、日ごとに失われていく民家の姿を描き続けてきました。氏の作品では民家だけがクローズアップされて描かれるのではなく、周辺の自然環境と生活の拠点といえる民家をとりにくく人々の生活にも大きな関心がはらわれています。

今日では点在するに過ぎない藁葺き、あるいは茅葺きの民家は、今後ますます減少を続けていくことになるでしょうが、氏が描き残した民家作品の数々は、長い歳月を経た後においても、庶民生活の象徴とも言える各地の民家建築の検証という視点でも深い意義をもつことになるでしょう。加えて、自然環境に対する向井氏の見識がそこには示されているとも、また言えるのではないのでしょうか。

本展では民家を描いた油彩作品およそ25点、また人々の日常生活場面を、繊細な筆触でとらえた素描作品15点をもって構成いたします。



《層雲(青森県北津軽郡市浦村脇元)》1964年



《遅れる春の丘より(長野県北安曇郡白馬村北城)》1986年



《自画像》1919年

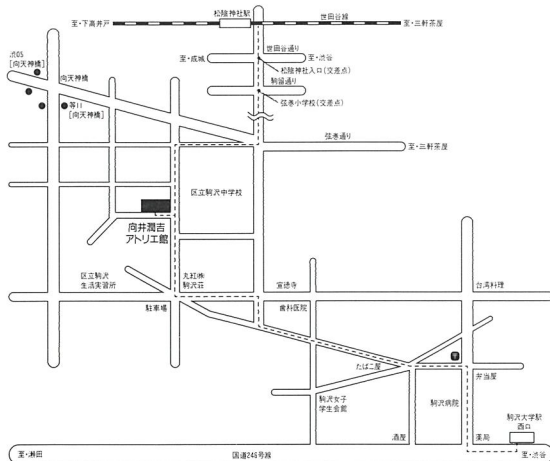


展示室

©宮本和義



《不詳》



交通案内

- 最寄り交通機関  
新玉川線 [駒沢大学] 駅西口 下車/徒歩10分  
世田谷線 [松陰神社] 駅 下車/徒歩17分  
東急バス [向天神橋] 停留所 下車/徒歩6分
- バス利用の場合  
渋谷駅から  
渋11 田園調布行 [駒沢大学駅前] 下車/徒歩10分  
渋12 二子玉川園行 //  
渋13 砧本村行 //  
渋82 等々力行 //  
渋05 弦巻営業所行 [向天神橋] 下車/徒歩6分  
祖師谷大蔵駅から  
等11 等々力行 [向天神橋] 下車/徒歩6分

**向井潤吉アトリエ館**  
〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1  
TEL 03-5450-9581